

東京港グリーンボランティア

中瀬浩太（東京港グリーンボランティア）

東京港グリーンボランティアというのは、人工干潟のある東京港野鳥公園ができた後、そこで活動しているグループです。

主な活動場所である東京港野鳥公園ができるにあたりましては、いろいろ紆余曲折がありました。1960年代の終わりごろ、埋め立てが開始されました。その後石油ショックなどもあり、しばらく上物の建設工事がストップしていた間に、何となく自然が回復した状況になってきて、それでバードウォッチャーなどが集まってきて、自分たちの観察フィールドにしていたのです。

我々のグリーンボランティアの先輩は、そのころからバードウォッチングの指導や、野鳥の会と協議して、木を植えたり、土を掘ったり、いろいろな試行錯誤をして鳥が集まるようなことをしていたわけでございます。

その後、市場が本格的にできる計画になりました。しかしその間にも埋立地は地盤沈下や侵食などで、湿地ができたり、干潟ができたりしておりました。それで、東京都との協議の末、かなりの部分を、干潟を含んだ公園にするということになりました。そのプロセスは加藤幸子さんの本に非常に詳しく書いてあります。非常にドラマティックなことがあったんですが、ともあれ、1989年に潮入の池や水田や里山なども含む干潟を中心とした、日本で最初に野鳥公園という名前を冠した公園公園ができたわけです。

公園が完成しましてから、日本野鳥の会のレンジャーが常駐して、観察指導とか、管理をするんですが、それだけではなかなか手が足りない。当初から出入りしていた我々ボランティアグループ、当時、大井ボランティアグループと称しておりましたが、それが環境管理であるとか、観察指導に携わって、今に至るわけでございます。

当初は、観察指導だけだとか、草刈りはしづらいとか、干潟には入るなとか、いろいろな活動の制約がありましたが、一つ一つ信用を作り、活動の場を拡大してきたというのが、我々の歴史でございます。

1995年～1998年に東京都の港湾局海上公園課と覚書を結んで、我々はこの中で環境管理でありますとか、いろいろなイベントをやっていいというお墨つきをいただきました。そして埠頭公社からの強い勧めもありまして、2004年にNPOの認証をとって、今に至っております。

我々の活動の目的というのは、俗っぽい言い方では、野鳥公園を盛り上げようということです。こういう干潟などの公園をつくっても、ただほっておいたのでは、だれも見には来ません。よっぽどのマニアしか来ません。ここにこういう生物がいますよとか、鳥が来ますよとか、カニがいますよという観察のポイントを皆さんに教えてあげないと、どこを見ればいいのか分からない。そういうことを教えてあげると、野鳥公園がおもしろくなって、またこの人たちも次には我々のグループに入ってくれるというようなことがあります。まずそうやって我々

の仲間を増やす。今、登録している者で大体70人くらいいます。

そして、やはり人工干潟ですから、普通の干潟と違って波もないし、大水も出ない。ほっておきますと、全部ヨシ原になったり、非常に平坦な泥の浜になってしまいますので、これをみんなで耕したり、ヨシを刈ったり、タイドプール（水たまり）をつくったり、溝を掘ったりして、地形の多様性を確保しています。

ここの干潟の特徴といたしまして、トビハゼがおります。自分の足元でトビハゼが見られるところというのは、東京都の中では結構珍しい。トビハゼのすみかへ人間が入り込むと、トビハゼにダメージを与えますので、例えば人とトビハゼを分けるように溝を掘ったり、看板を立てたりというような作業もやっています。

この公園の目指すところがもとの江戸前の沿岸部分の風景の再現ですから、干潟だけでなく、里山もあれば田んぼもあります。そういうところで農業体験ですとか、田植えの体験、また水路の中でタニシやザリガニをとったりというイベントも企画運営しております。

今の活動は主にイベントの実施と、それから環境改善でございます。今後はモニタリングのようなことも少しずつやっていきたいと思っております。担当者は日曜日、土曜日しか作業できないので、年に何回か多くの人を集めて、ごみ拾いとか、生物観察会といったイベントの場を利用いたしまして、生物の記録などをしていきたいと考えております。

そして、干潟でミオスジやタイドプールを作ったり、耕耘したりといった実験的なこともやっておりますので、そういうものをどんどん情報発信していきたいと思っております。活動場所である東京港野鳥公園は、我々のグリーンボランティアメンバーのみんなの庭でございます。ボランティアの集まりは都市における擬似コミュニティでもございますので、いつまでもみなで楽しく遊べるように努力したいというのが本音でございます。

【ポイント】行政はこういうをつくる時は熱心ですけども、維持管理の段階になると、急に熱意が冷めていくというのが実感としてあります。

【ポイント】今のところボランティアには、金銭的支援はありません。当面は、ここで自由に活動させてくれるという保障をいただくことでも十分です。ボランティアグループが活動できるフィールドがあるということが一番の宝だということです。

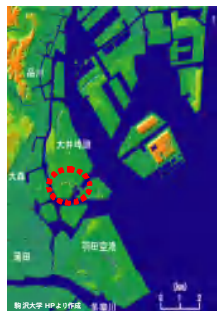
【ポイント】他の団体、NPO法人同士の連携は、話や情報は入っていますが、まだまだ具体的な行動には至っていません。今後取り組んで行きたいと思っております。

東京港グリーンボランティア

「埋立地に再生した人工干潟をそだてる」

Tokyo Port Green Volunteer

= Restoration of Constructed Tidal flat in Reclaimed land =



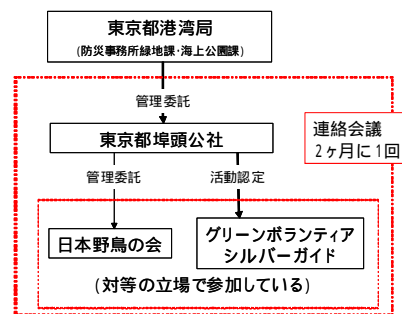
大井第七埠頭公園(1978年開園)部分



NPO東京港グリーンボランティアの活動拠点
(東京港野鳥公園)

東京港グリーンボランティアの歴史

1966: 大井埠頭埋め立て開始
1975ごろ: 埋立地に野鳥などの生物が定着し始める
1978: 大井第七埠頭公園完成(3.25ha)
大井ボランティアグループ(東京港グリーンボランティアの前身)が環境管理や観察指導を協力
1982: 大井自然公園推進協議会署名運動
1989: 東京港野鳥公園拡大オープン(26.6ha)
<活動は観察協力などに限定>
1990: 埠頭公社と覚え書き(野鳥公園での活動認定)
「グリーンボランティア」の名称を使用
1993: ボランティア企画の環境管理活動が可能となる
2004: NPO認証



活動体制
(東京港野鳥公園の管理体制)

東京港グリーンボランティア企画・主催の各種活動

観察会・体験行事 東京港野鳥公園を知ってもらう活動



潮入りぐると観察会
毎月第二日曜日の定例観察会



稲作体験行事
田植えから稲刈りまでを体験

干潟の環境管理活動 人工干潟・東京港野鳥公園の環境をよりよいものにする試行錯誤



ヨシ刈り
増えすぎたヨシを整理して干潟面拡大



干潟クリーンアップ作戦
前浜干潟に漂着したゴミを除去



カニのすみか整備(石積み整備) 干潟耕耘(生物が穴を掘りやすくする)
干潟に飛来する野鳥の餌(カニやゴカイなど)を増やす



タイドプールの作り(トビハゼ産卵場拡大) ミオスジ造成(生物多様性増大)
干潟に微地形を作り、いろいろな生物が住むことのできる環境を整備

■ 活動の目指すもの

NPO東京港グリーンボランティアの目的は、東京港野鳥公園来園者に対するバードウォッチングや自然観察の指導、ならびに環境管理事業(草刈・海浜清掃・微地形維持等)や里山農作業体験活動の企画および実施である。

東京港野鳥公園の干潟は、穏やかな潟湖タイプの人工干潟であり、干潟の生物相を維持するために、適切な環境管理が必要である。そこで、波や風による自然攪乱に替って、タイドプール造成やヨシ群落整理を行う。また、トビハゼ産卵場の保護や石積みによるカニ生息場拡大などを行って、人工干潟を育てている。

■ 活動場所について

グリーンボランティアの活動場所は、大井埠頭埋立地の大田市場に隣接した全体で24.3haの東京港野鳥公園である。ここには元々埋立地にウエットランドが自然発生し野鳥が多く見られる場所であった。ここに市場を建設する際、市民の働きかけにより、自然を残す代替処置として、当初は淡水池を造成した(1978年)、さらに埋立地を掘削した潟湖干潟を造成した(1989年)。干潟の他にも淡水湿地、水田、樹林地がある。風景デザインは、かつての東京湾沿岸の原風景の再現を目的としている。

■ 活動期間、頻度について

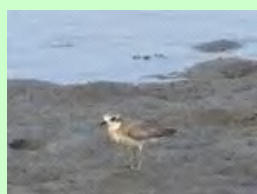
東京港グリーンボランティアは、1978年に開園した大井第7埠頭公園に関わった「大井ボランティアグループ」が前身である。当初より野鳥観察会や環境管理を中心に活動を実施している。1990年に東京都埠頭公社と締結した活動認定の覚え書きにより活動が公認され、1993年にはボランティア企画の活動も認められるようになり、2005年のNPO認証に至る。

現在は毎月第二日曜日の定例観察会「潮入りぐると観察会」、「前浜干潟クリーンアップ」、「干潟ビオトープ作り」、「水田作り」、「里山管理」等、毎月複数のイベントを実施している。

■ 関係者について

NPOメンバーは様々なキャリアを持つ一般市民からなるボランティアである。各人の得意分野や活動テーマ別に干潟班・里山班などのチームを作り、主に週末に活動している。

野鳥公園には複数の団体が活動を行っているが、東京港埠頭公社(公園管理者)、日本野鳥の会(埠頭公社より環境管理と観察指導を受託)、シルバーガイド(高齢者による公園ガイドのボランティア)による連絡協議会を2ヶ月ごとに開催して、活動の実施場所や作業およびイベントの内容を調整している。



NPO法人 東京港グリーンボランティア

(連絡先) 〒167-0041 東京都杉並区善福寺1丁目2番19号 TEL 03-3390-4519 FAX 03-3390-3495
(インターネット) <http://f38.aaa.livedoor.jp/~green/index.html>

N.P.O. Tokyo Port Green Volunteer

(Contact point) 1-26,19, Zenpukuji, Suginami-ku, 167-0041, Japan Phone +81-3-3390-4519 Facsimile +81-3-3390-3495
(Web page) <http://f38.aaa.livedoor.jp/~green/index.html>